

WACCA

MONTHLY REPORT



9/24 WACCAあそび基地

10/21-22の「KOBEランタン縁日2022」で、商店街内を飾るランタンの絵付けを行いました。
子どもは5人参加し、大人も一緒になって絵付けをしました。
最後に、自分で描いたランタンを持って、記念撮影!!



はい、チーズ!!

WACCA内にある「物」を使っての物しりとりにも、コープこうべ様より寄贈していただいた絵本から2冊読み聞かせをしました。
とても楽しい2時間でした。



WACCAの活動にいただいたご寄付を活用し『まんが日本の歴史』全19巻と、『まんが世界の歴史』全20巻を購入しました。

歴史の勉強と言え、学年を重ねるごとに「年号の丸暗記」「試験前の一夜漬け」で終わってしまうことも多いかと思いますが、漫画を通して歴史上の人物に興味を持ってもらえたらな……と思っています。

WACCA塾より

9月は、WACCA塾が継続的な居場所になっていることを改めて実感した一ヶ月でした。

月初めには東京に就職したボランティアさんが休暇を使ってWACCAに来てくれました。すぐに気づいて駆け寄る子、チラチラ見ながらちょっと恥ずかしそうにする子、反応はそれぞれですが再会できたことを喜んでいました。短い休暇中にご実家に帰るだけでなくWACCAにも寄ってくれたことに、スタッフ一同ほっこりした気分になりました。

WACCA 小さな読書会



<内容>

ひとりでビー玉遊びをしていたドンドンが、ビー玉のかわりに文房具屋で見つけたのは6つのあめだまでした。形も大きさも模様もバラバラで、それの一つずつ食べてみると、ソファの声や飼い犬の声が聞こえてきて、いつも怒っている父親の本音や亡き祖母の声まで。外に出てあめを食べても無音だと気づいたとき、自分から声を出して……。そして、一緒に遊ぶ友達を見つけたのでした。

また別の日には去年WACCA塾を卒業した高校生が二人やってきました。「文理選択で悩んでる……」ということで、ボランティアさんたちに「文系、理系、どっちでしたか?」と、その理由も聞いて回っていました。こうして相談できる場所があるって幸せなことだなと改めて思いました。

月末にもWACCA塾の卒業生がひょっこり顔を出してくれて、WACCAに飾っているランタンを見て、「私もやっつけていい?」と、一つ仕上げてくださいました。いろいろ大変なことがあった子どもでしたが、元気な顔を見せてくれるだけでホッとします。絵を描いている間、中学生だった頃のことを思い出して懐かしい気持ちになりました。

『あめだま』
作：ペク・ヒナ
訳：長谷川 義史
出版社：ブロンズ新社



この『あめだま』は、2020年にアストリッド・リンドグレーン記念文学賞を受賞した作品で、コープこうべ様の「絵本で平和を未来につなぐプロジェクト」で寄贈していただいた絵本です。

<感想>

コープこうべ様のおすすめコメントは「多様性のある家族を描きながら、全ての子どもの気持ちに沿うストーリーペク・ヒナの代表作」「味のある長谷川義文さんの翻訳は絶品」でした。

表情豊かに作られた人形は、愛らしさとは程遠い顔立ちで、関西弁で語る姿は可愛げも何もないのですが、いつの間にか心惹かれているのに気づきました。手作りの人形と、緻密なセットの画面も独特で、本文だけではなく前後の中表紙や裏表紙まで含めて本文になっているという構成が素晴らしいです。

全て読み終えて絵本を閉じて裏表紙を見た時に、その意味が分かる仕組みになっているので、もう一度読み返したくなります。

その頃には、ドンドンの小憎らしい表情も可愛らしく見えてくるのが不思議でした。